

連載

めざせ Stand-Alone



グローバル化が進む中、日本の社会、企業は世界の中での新たな役割と強みに向けて変革を進めてきました。しかし、それ以上に速い変化のなかで日本のモノづくりは国際分業体制での新たな役割と強みを見いだせずにあります。30年後、2050年の日本は少子化が進み縮小していく経済の中で、豊かさと幸せも失われていくのでしょうか…？

いいえ、皆さんは新たな役割と強みを見出し、多くの海外の人たちと共に働いていることでしょう。あなたもその準備、出来ていますか？

日本の社会と経済

● 日本の人口と経済規模

日本の人口は2020年の1億2700万人から2040年に

1億1100万人、2065年には8800万人へと29%の減が予測されています。また15～64歳の生産年齢人口は2065年までに39%減少すると予測されています(図1)。

豊かさと人々の幸せにもつながる国の経済規模は、その国の人口と生産性に大きな影響を受けます。OECD(Organisation for Economic Co-operation and Development, 経済協力開発機構)による物価変動と購買力平価を考慮したGDP(国内総生産: Gross Domestic Product, 2010年基準, 計算法詳細不明)の長期予測を見てみると、日本の実質GDPは年平均1.13%で成長し、2050年は7兆ドル、中国、インド、アメリカ、インドネシアに次ぐ5位と予測されています。計算方法と基準年は異なりますが2019年までの実質GDP実績値もグラフにいらてあります。

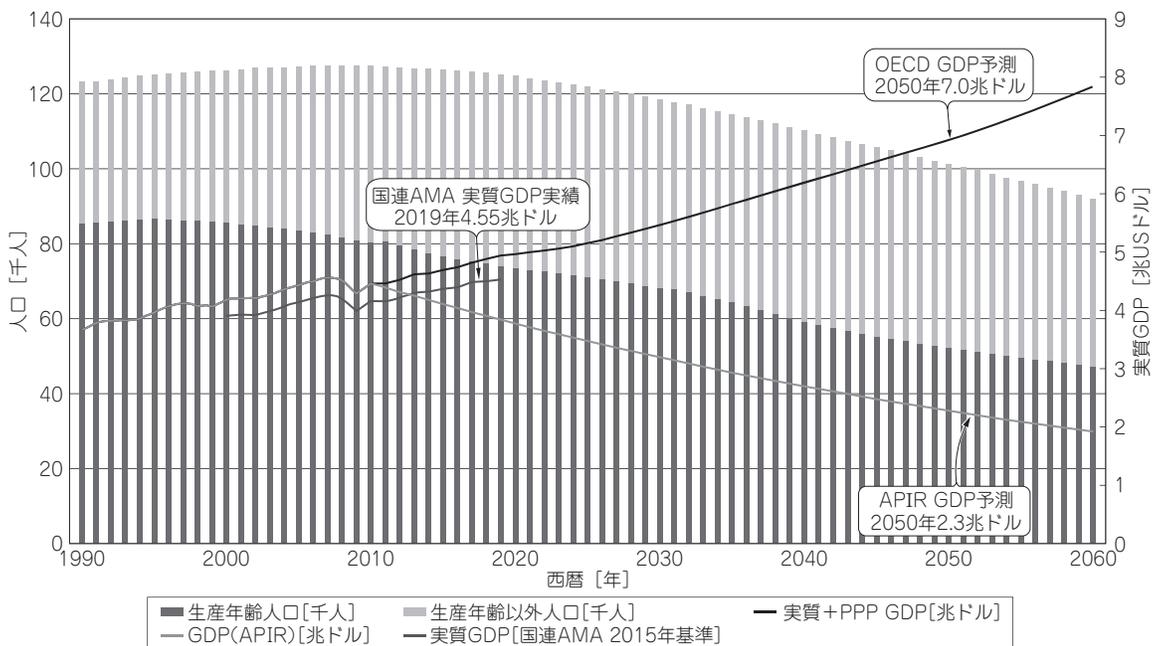


図1 日本の人口推移とOECD(経済協力開発機構)長期GDP予測⁽¹⁾
人口は出生中位データ、予測GDPは2010年基準